

## ○平成22年度予算成立

3月26日、平成22年度予算が成立しました。全国的に予算が削減されている中で、当事務所が担当している三河港神野地区多目的国際ターミナル事業、衣浦港武豊北ふ頭地区多目的国際ターミナル事業、衣浦港中央ふ頭西地区岸壁改良事業の必要性が認められ、3つの事業を併せて、10.3億円が配分されました。

その他には、三河湾への玄関口である中山水道航路の管理・保全事業、三河湾の環境改善を目的とした海域環境創造・自然再生事業（シーブルー事業）が配分されました。

本年度もよりよい港湾づくりを目指して事業を推進していきますので、ご理解ご支援よろしくお願い致します。

港湾	事業費
三河港	7.9億円
衣浦港	3.4億円
中山水道航路	0.8億円
海域環境創造・自然再生事業	0.3億円
合計	12.4億円

## ○平成21年度の三河港における浚渫工事

今年度三河港では、下図に示す泊地（船舶が安全に航路から出入りし停泊することができる水域）において水深-10mを-12mまで土砂を取り去る浚渫工事を実施しました。泊地の水深を深くすることにより、より大きな船舶の入港が可能となります。

浚渫は下の写真にある「グラブ浚渫船」という建設機械で行いました。先端には土砂を掘るバケットが設置されており、今年度の工事では、全長70m、幅26m、バケット容量50m<sup>3</sup>（幅9.6mの巨大なバケット）の大型浚渫船等を使用し施工しました。

なお、今年度の浚渫数量は約23万m<sup>3</sup>で25mプール約550杯分です。浚渫した土砂は「土砂運搬船」で田原地区にある造成中の企業用地の護岸前まで運び、バージアンローダー船で土運船の船倉に注水し土砂と攪拌混合し、これを揚土ポンプにて吸い上げ造成中の企業用地へ揚土します。



平成21年度浚渫範囲位置



揚土状況



浚渫状況



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

### ☆CONTENTS☆

#### ■巻頭コラム

#### ■最近のトピックス

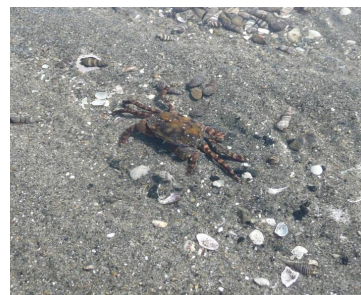
- 「第2回愛知県観光交流サミット in 知多半島」開催
- 第1回「中部の未来を考える会」シンポジウムの開催
- 三河湾・奇跡の干潟「六条潟」
- 平成22年度予算成立
- 平成21年度の三河港における浚渫工事

### ☆巻頭コラム☆

### 三河港湾事務所長 平井 洋次

新年度を迎え、今年は桜も早く咲き、早く散ってしまうかと思いましたが、急に寒さが戻ってきた影響で入学式まで保ち、写真撮影の良い背景が出来たかと思えます。

前回、今年は潮干狩りをと書きました。まだ潮干狩りには行くことが出来ていませんが、六条潟を歩くことは出来ました。普段から六条潟の近くを通ることはありますが、いつも水面でどこが干潟なのか実感することは出来ません。しかし、大潮の時などを見計らっていくと、沖合い800m位まで歩いていくことが出来ました。



実際に歩いてみると、普段見慣れている景色とはずいぶん違います。いつもは海の中なのに歩くことが出来るといううまく表現できませんが、不思議な感じです。

生き物については、行った日が寒い日だったせいか、なかなか発見することが出来ませんでした。あさりもいっぱいいるかと思っていましたが、なかなか見つけることができません。ようやく見つけたカニも全く動かないという状況でした。これでは納得できませんので、様々な生き物を見るためにもう一度改めていってみたいと思います。

六条潟の見学については、本文にもありますのでそちらもお読みください。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局  
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1  
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地  
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>  
E-mail [info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp](mailto:info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp)

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



☆最近のトピックス☆

○「第2回愛知県観光交流サミットin知多半島」開催



名古屋おもてなし武将隊によるパフォーマンス

3月9日、10日、第2回目の愛知県観光交流サミットが中部国際空港をメイン会場に開催されました。

サミットは、乗船ツアー、講演会・交流会、バスツアーの3つのプログラムで構成されており、それぞれ多数の方が参加されて盛況でした。

今回のサミットのメインとなる講演会では、まず、講演会の開催に先立ち「名古屋おもてなし武将隊」によるパフォーマンスから始まり、開会後、各地の取り組み事例の報告がありました。先進的に取り組んでいる地域であっても多くの悩みを抱え日々苦労されていることを聞くことができ、とても参考になりました。

その後の基調講演では、(社)

日本観光協会中部支部長の須田寛氏より、当地の産業観光資源の魅力、今後の観光のあり方など示唆に富んだ話を聞くことができました。会場は満席で熱気ある講演会でした。



須田寛氏の講演

○「第1回「中部の未来を考える会」シンポジウムの開催

3月15日、第1回「中部の未来を考える会」が開催されました。

前身である「伊勢湾・三河湾を考える会」は、平成8年に設立され、過去12回にわたり開催されてきました。昨今の社会状況・経済状況の影響を受けながらも、将来的に更なる発展をするためには、新しい技術等の作り出し、総合的・広域的に整備を進める必要があり、今回関連する4省5局と経済団体が連携し、地域づくりを検討するため「中部の未来を考える会」が設立されました。

今回のシンポジウムは2部構成で、第1部では、ノンフィクション作家で獨協大学特任教授の山根一真氏が「技術開発に勇気を！」と題して講演されました。第2部のパネルディスカッションでは「技術力で拓く中部の未来」というテーマで討論されました。現状の技術の紹介、今後の技術の発展について、さらには中部地方の未来について等、4省5局の局長から様々な意見がでて活発な討論がされました。



シンポジウム会場の様子

三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

★ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧いただけます。★

○三河湾・奇跡の干潟「六条潟」

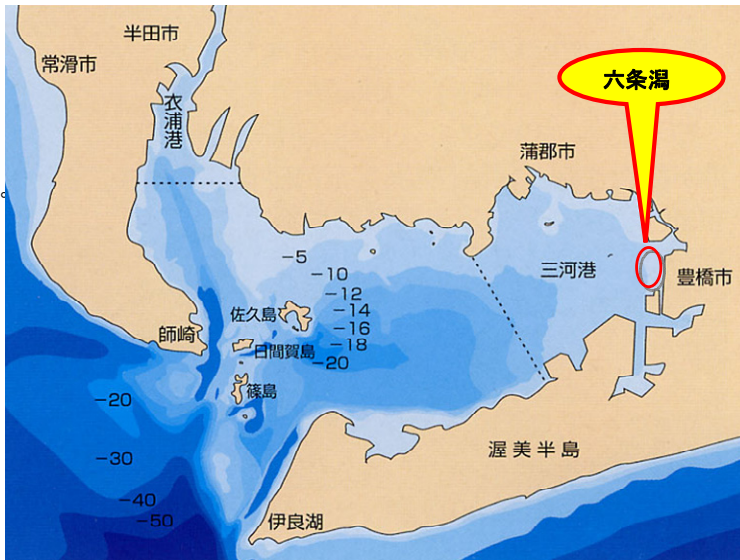
アサリの漁獲量日本一(平成20年度)を誇る愛知県。それを支えているのは、アサリを初めとする二枚貝の発生場所として貴重な場所である奇跡の干潟「六条潟」です。今年1月にNHKでも特集として放映されましたこの干潟を現場視察してきました。

当日は、昨日までの強風も収まって絶好の干潟観察日和。

午前11:58の干潮に合わせて干潮1時間前に現地入りしました。満潮時の波打ち際から約800m(目測)沖合まで干潟が形成されており、壮大な風景を目の当たりにしました。

砂上及び砂を少し掘って生物の生息状況を目視観察しました。アサリ、アラムシロ、サルボウガイ、マメコブシガニ、イソガニ、ムラサキガイ、アカクラゲ、ミズクラゲ・・・を確認。ただ、まだ水温が低いのか、カニ類の動きが悪い等、この干潟に本格的な春がやってくるのはもう少し先のように感じました。このMini-WANが発行されるころは水温がもう少し上がって安定し、様々な生き物が活動する干潟へと移り変わることでしょう。

生物生息の場としてだけでなく、そこに息づく二枚貝等における水質浄化機能が期待できる干潟。これからも大切にしていきたいと思っ現場視察でした。



六条潟の位置

<当日(3月30日)のデータ>

潮 : 干潮・11時58分 水温 : 約12℃  
潮位マイナス1cm (三河港湾管理用基準面)



六条潟のあさり



干潮時の六条潟

(注意) 六条潟は愛知県漁業調整規則のアサリの採捕禁止区域として規制されています。また、干潟への進入路は海岸堤防耐震化工事のため立入禁止となっています。尚、今回の視察は特別に許可を得て行いました。